

# 埋蔵文化財確認調査

令和3年12月23日

石川県

1. 概要

近世前期以降、金沢城の中枢部で、明治14年（1881）に焼失するまで存在していた二ノ丸御殿について、埋蔵文化財確認調査を実施し、遺構の位置や内容等を確認することで、復元整備の根拠となる情報を取得し、遺構の確実な保存を図る。

調査期間：令和3年5月17日～12月17日 調査面積：1,600㎡

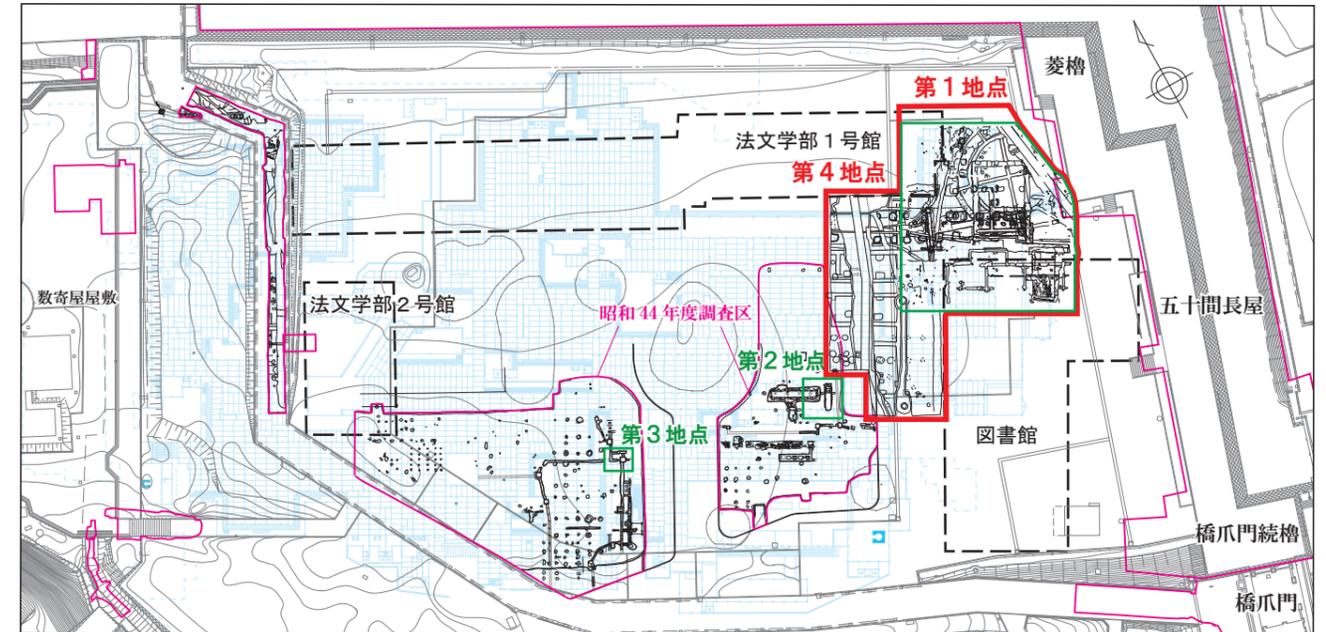
現地指導：令和3年7月2・9日、11月18・26・30日、12月1日

（金沢城調査研究専門委員会委員、金沢城二の丸御殿復元整備専門委員会委員）

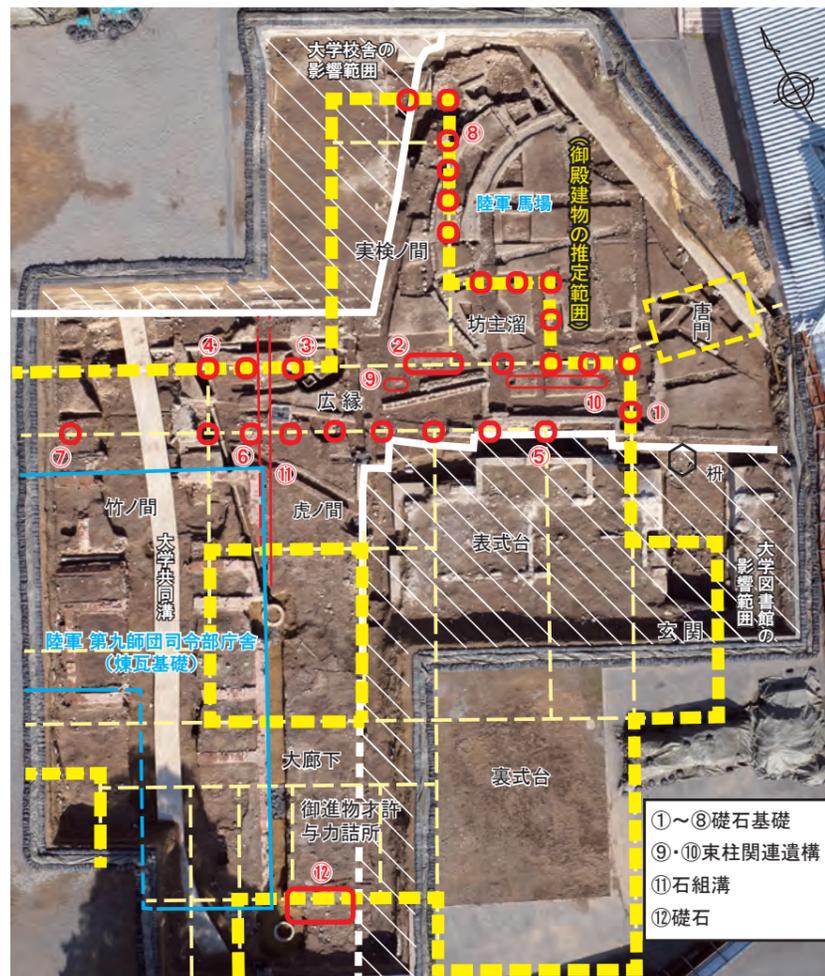
現地公開：令和3年12月2日（報道）、4日（一般）

2. 調査の成果

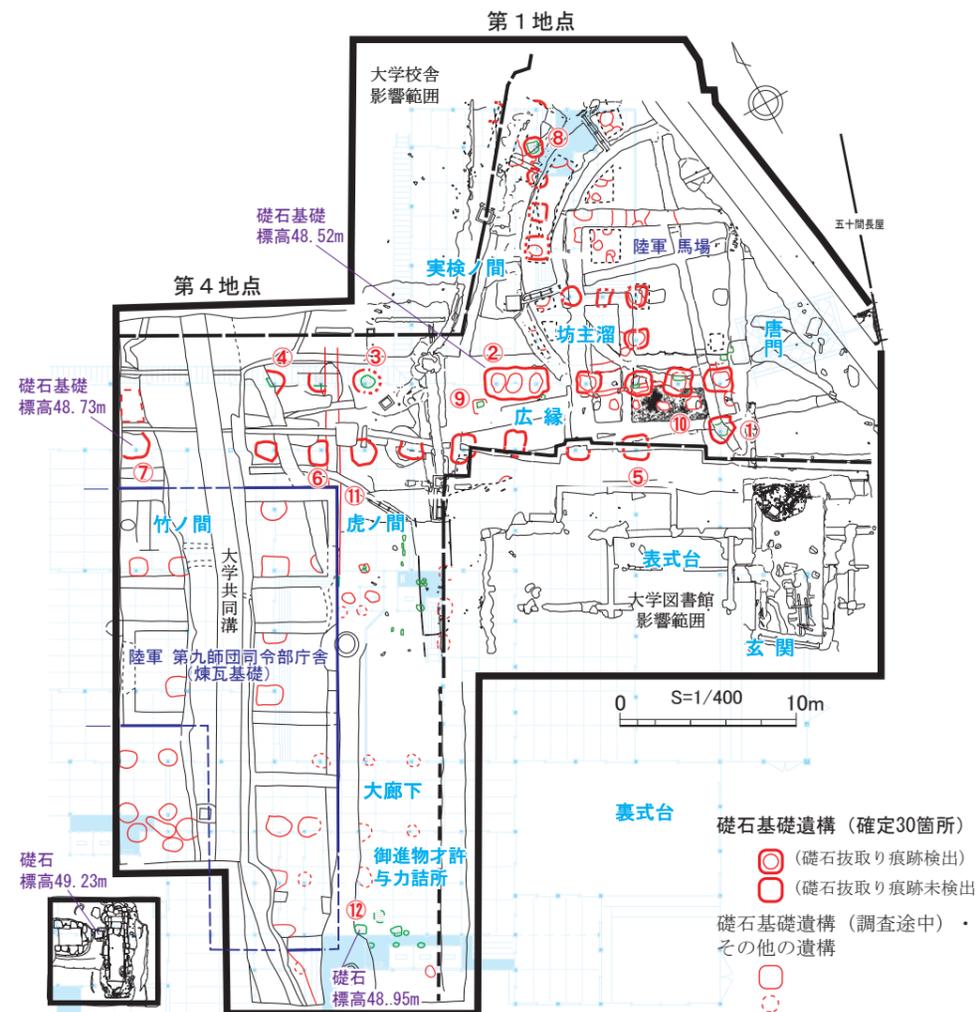
- ・今年度は、二ノ丸御殿の北東部にあたる区域の調査を実施した。その結果、江戸後期の御殿建物の柱を支える礎石の基礎遺構を30箇所確認した。これらは表式台から虎ノ間・竹ノ間へと延びる広縁両側の柱列と、実検ノ間及び坊主溜にかけての柱列に対応しており、御殿北東部における主要建物の位置が特定された。
- ・礎石基礎遺構の間隔は、「二ノ丸御殿建物指図」に記載された柱間寸法とおおよそ整合しており、復元根拠史料としての同絵図の信頼性が確認された。



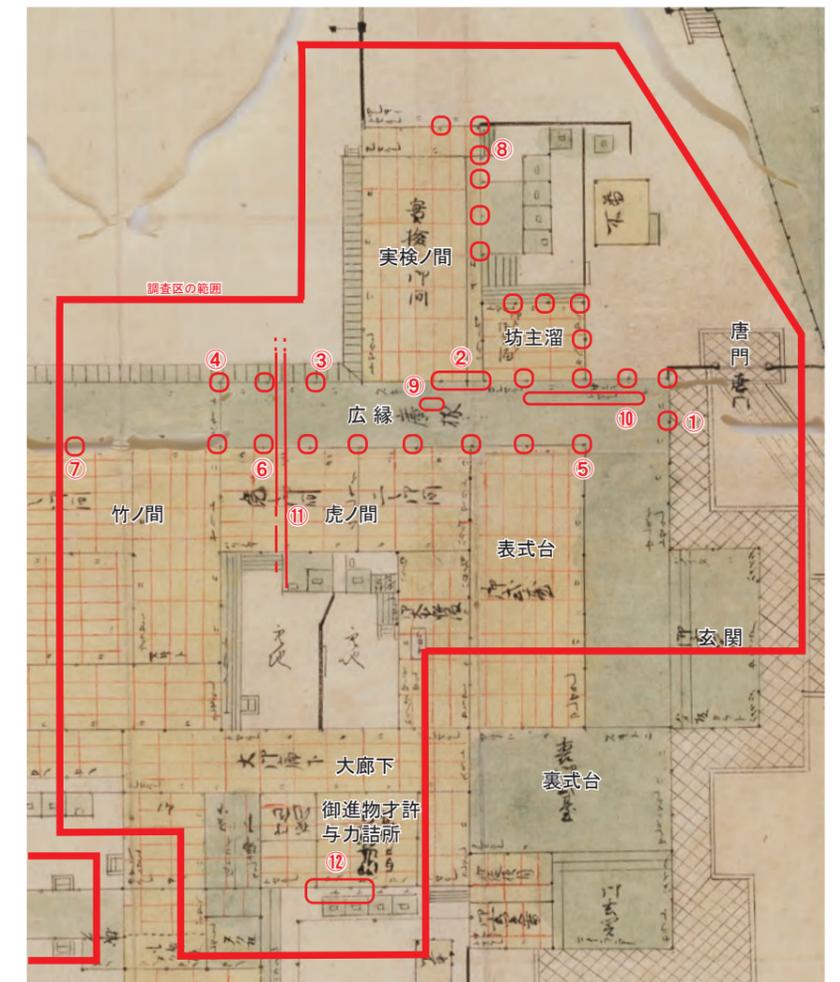
二ノ丸調査区等配置図  
 ※青線：近世後期の二ノ丸御殿（部分）  
 「二ノ丸御殿建物指図」（金沢市立玉川図書館蔵）等を参考に作成  
 参考：『金沢城二ノ丸跡発掘調査概報』（石川県教育委員会 1970）他



調査区平面 垂直写真



二ノ丸御殿遺構配置略図（1/400）



遺構の位置と絵図  
 「二の御丸惣絵図」（部分・加筆）金沢大学附属図書館蔵

- ・礎石の基礎には、幅 1.2 ~ 1.4m、深さ約 1 m の穴に、川原石や戸室石の割材を充填するタイプと、1 辺 50cm 前後の大型石材 1 石を据え置き、周囲を土と川原石で充填するタイプを確認した。大型石材を据え置くタイプは、建物の外周に位置する傾向が認められる。
- ・広縁内側では、礎石基礎列と平行する東柱の基礎と考えられる小穴列を確認した。
- ・このほか調査途中であるが、雨水排水用の石組溝や、建物南側の礎石・礎石基礎、陸軍第九師団司令部庁舎の煉瓦基礎遺構なども確認しており、次年度に精査を予定している。

